

Green Brave

#52 Green Brave GR Supra GT


 AUTOBACS  
 SUPER GT  
 2024 SERIES

Round.8

MOTEGI GT 300km RACE

2024年11月2日(土)～3日(日)モビリティリゾートもてぎ(栃木県茂木町)

## ■■■■タイヤ無交換作戦で追い上げ7位入賞■■■■

第8戦のレース距離は300km。第5戦鈴鹿が12月に延期になったため、もてぎ大会恒例のノーウェイトではなく、ハーフウェイトで行われました。土曜日(予選日)の天候は雨。台風由来の低気圧が通過しているため、朝から激しい雨が降り続いています。公式練習は定刻の9時に始まりましたが、コースアウトする車両や雨量の増加により、何度も赤旗が提示される状況。ベストタイムは吉田選手がマークした2分01秒096で、9位につけましたが、野中選手はほとんど乗れていない状況です。

予選は定刻の14時から20分間。上位14台がQ2 U14(上位組)に進む、新ルールが採用されています。吉田選手はシグナルと同時にコースイン。レインタイヤを温めながら周回を重ね、3周目に2分02秒140をマークし、2位につけます。しかし、雨量が増加したため、赤旗中断となり、残り10分で再開されます。

タイヤを交換してコースに入った吉田選手は7周目に1分59秒888のベストタイムをマーク。その後、赤旗終了となり、3位でQ2 U14進出を決めました。Q2 U14は15時31分から行われ、野中選手はやや間隔を開けてコースイン。クルマの感触と路面の状況を見極めながらアタックを行います。野中選手は3周目に1分59秒428のベストタイムをマーク。11位につけ、上位を狙えるスタート位置を確保しました。

日曜日(決勝日)の天候は晴。まるで台風一過のような晴天で、朝から強い日差しが降り注いでいます。チームはスタートドライバーに野中選手を起用。得意のタイヤ無交換作戦でジャンプアップし、上位フィニッシュを狙います。野中選手は2台のFIA-GT3車両に抜かれて、13位で1周目を終了。レース序盤は劣勢を強いられませんが、タイヤに熱が入るにつれ、徐々に順位を上げていきます。上位のストップにより、3周目に12位に上がると、5周目に#4AMGをパス。11位に順位を戻します。9周目に#4AMGに抜かれて再び12位となりますが、12周目に#4AMGと#45フェラーリを立て続けにパス。入賞圏内の10位に進出すると、今度は先行する#6フェラーリとの差を詰め、15周目に抜き去ります。その後も良好なペースで上位とのギャップを短縮。19周を過ぎたあたりから、ライバルがピットに入るようになり、野中選手もチームと無線で交信しながら、ピットインのタイミングを模索します。近隣のチームとピットインのタイミングが重なってしまったため、22周目にピットイン。吉田選手に交代し、作戦通り給油のみの短い作業でピットアウトします。たくさんのライバルが毎周のようにピットインを行っており、27周目には6位に浮上。序盤のバトルの影響でミラーを破損し、さらにバックカメラも使えない状況ながら、タイヤ交換を行ったライバルと必死のバトルを展開します。28周目、#7BMWに抜かれ、7位へポジションダウン。47周目には#777アストンマーティンに抜かれ、8位に後退します。49周目、上位のコースアウトにより7位へ。吉田選手はあきらめずに#777アストンマーティンを追いますが、終盤、#56GT-Rの猛追を受けます。しかし、集中力を切らさず、わずか0.071秒差でチェッカー。第3戦以来の入賞を記録し、ランキング9位に上昇しました。長いトンネルを抜け出したGreen Braveの最終戦での活躍にご期待ください。

### 決勝結果(GT300クラス)

#52 Green Brave GR Supra GT

(吉田広樹/野中誠太)

決勝: 7位(58周、1時間54分19秒527)

予選: 11位(1分59秒428)



## DRIVERS VOICE



吉田広樹 選手

**予選後：**予選後：3大会連続の雨。しかも、雨量は多く、なかなか連続して走れず、ちょっと難しいコンディションが続いた感じです。誠太が走った時の雨量は多く、アウトインしかできなかったのもうちょっと走らせてあげたかったです。とはいえ、ぼくも2周しか走っていないので、ドライバーの能力を出し切るという意味では難しい1日でした。ここ2戦、雨でうまく走れず、自分的になかなか攻めきれませんでした。状況さえ整えば、上に行ける走りができることを実証できました。順位以上に意味のある予選だったと思います。

**決勝後：**タイヤ無交換だったので、タイヤを交換した組と比べてペースはありませんでした。耐えれば、交換組のタイヤもタレてくると思い、強い気持ちで戦っていましたが、次から次へと仕掛けられて結構大変でした。ドアミラーとバックカメラが壊れてしまい、まわりを把握するのが遅れ、アクセルを踏みタイミンが遅れてしまうことがありました。チームが無線でのクルマが来るか教えてくれたので、ベストを尽くしました。後ろの56号車のペースがすごく良かったのですが、2台の着順がポイント差に響きます。順位を守り切ることができ、良かったと思います。



野中誠太 選手

**予選後：**吉田選手から走行を始めて、計6回ぐらい赤旗が出ました。走行時間がなくなり、ぼくのタイミンで雨量が増えてしまい、赤旗で終わってしまったので、ぼくはアウトインだけで終わる形になりました。サクセスウエイトは少し軽くなりましたが、ウエイトで性能調整されているので、まだまだ苦しい状況の中にいると思います。ただ、重量云々というより、コンディションに対してタイヤがどうマッチングしているの方が重要だったので、そういう意味では他車と比べてそこまで悪くなかったなと思います。

**決勝後：**スタート直後、まわりのライバルがストレートの速いFIA-GT3勢だったので、少し順位を下げる形になったのですが、タイヤの使い方や長いレースのことを考え、冷静にバトルすることができました。ライバルのペースが若干落ちたところで、落ち着いて順位を上げることができたので、悪くないステントだったと思います。前戦オートポリス同様、ドライのペースはライバルより良かったと思いますし、今回の予選は真ん中の方になってしまったので、もっと前からスタートできれば、単独でペースを活かせる展開になると思います。現状としては、良いレースができたと思います。

### GT300 クラス決勝結果

順位	車名(車種)	周回数
1位	VENTENY ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3 EV02)	59周
2位	LEON PYRAMID AMG (メルセデス AMG GT3)	58周
3位	UPGARAGE NSX GT3 (ホンダ NSX GT3)	58周
4位	METALIVE S ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3 EV02)	58周
5位	Studie BMW M4 (BMW M4 GT3)	58周
6位	D'station Vantage GT3 (アストンマーティン ヴァンテージ GT3 EVO)	58周
7位	<b>Green Brave GR Supra GT (トヨタ GR Supra)</b>	<b>58周</b>

天候：晴 路面：ドライ トップ7まで (出走27台)

### GT300 クラス チームランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	65	K2 R&D LEON RACING	97
2位	88	JLOC	90
3位	8	muta Racing INGING	82
4位	777	D'station Racing	68
5位	7	BMW M Team Studie×CRS	62
6位	56	KONDO RACING	49
9位	52	<b>埼玉 Green Brave</b>	<b>44</b>

## PARTNERS



**次戦予告** 12月7日(土)～8日(日) 鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)